

。筑後市島田地区は、中世の水田・満宮領水田荘の故地にあたり、花宗川を挟んで対岸の熊野社領・広川荘と頻繁に土地相論を繰り返していた。今回調査は、下水終末処理場建設に伴うもので、二〇〇〇年度から発掘調査を実施している。

検出した遺構は、掘立柱

福岡・彼岸田遺跡

- 1 所在地 福岡県筑後市島田字彼岸田
- 2 調査期間 二〇〇〇年(平12)一〇月～二〇〇一年二月
- 3 発掘機関 福岡県教育委員会
- 4 調査担当者 小田和利
- 5 遺跡の種類 居館跡
- 6 遺跡の年代 室町時代・近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

彼岸田遺跡は、筑後川の一支流である花宗川左岸の沖積低地（標高五・四m）に立地する居館遺跡である。筑後市島田地区は、中世

建物二棟、土坑二基、埋甕一基、溝九条などで、出土遺物から一四世紀後半から一五世紀にかけて存続したと考えられる。また、近世墓三四基も検出した。

呪符木簡一点が出土した二号溝は、北辺長五七m幅五八m深さ一・四mを測り、建物・土坑を囲繞する区画施設である。さらに一号溝と九号溝の二重の溝で囲まれており、九号溝は北辺長が一二六m以上を測ることから、居館遺構全体としては方二町の規模を有するものと推測される。また、二号溝からは呪符木簡の他に、漆塗る椀・三方・篋・臼・下駄・唐鋤・馬銚・焼けた建築部材などの豊富な木製品が出土している。国産陶磁器（天目茶碗・備前焼大甕）、舶載陶磁器（青磁碗・白磁皿）、石製品（硯・茶臼・砥石・五輪塔）、毛彫り模様のある棒状の銅製品なども出土している。

今回検出した二重の溝（堀）は、居館を防御するための施設で、彼岸田遺跡は水田莊を支配した大鳥居氏が広川莊に対抗するために築造した、前線基地的性格を有する居館遺跡と捉えられる。

8 木簡の釈文・内容

- (1) ・「天形星王八王」

「(シクア) 符籙 天罡 (付籙) 九々八十一
(ポロニウー) 符 二十七八
(マンケ) 符 一申
(イ) 符 籙 急、如律令

天歌星王八王

[illegible]

(小田和利)